



バレーボール女子U18日本代表

中川芽生さん

インドア
ビーチ
で目指す世界の舞台

「試合に出られなくても、自分にできることがあると思っていました」

そう話すのは、2026女子U18バレーボールアジア選手権大会に出場し、チームの4位入賞と2027女子U19バレーボール世界選手権大会の出場権獲得に貢献した中川芽生さんです。市場少女バレーボールクラブで競技を始めた一人の少女が、努力を積み重ね、世界へ羽ばたこうとしています。

バレーボールとの出会いは小学4年生。同級生から「部員が少ないから体験にこない？」と誘われたことがきっかけでした。しかし、試合でコートに立つ機会はありませんでした。それでも「チームが勝つために自分にできることを」と考え、レギュラーメンバーの練習相手としてブロック役を務める日々。「しんどいことを乗り越えれば、必ずいいことがある」。そう信じて練習を続けている中、指導者は中川さんの強みである「身長」に着目し、スパ

イクを重点的に指導。中学校ではその指導を生かしてミドルブロッカーに転向し、最後の大会では、それまで勝てなかった丹後中学校に勝利を収め、京都府大会出場を果たしました。

さらなる成長を目指し、福知山淑徳高校へ進学。保育士を目指すコースがあることに加え、高いレベルで競技に挑戦したい思いから、親元を離れ寮生活を始めました。慣れない寮生活、規律ある部活動や礼儀を重んじる環境に戸惑いましたが、「やると決めたからには最後までやり切る」という強い気持ちで乗り越えてきました。

積み重ねてきた努力は実を結び、1年生ではビーチバレーボールU21・U19日本代表候補選手に選出。昨年は全国高校選抜ビーチバレーボールメンバーとして海外遠征を経験し、今年はインドアでU18日本代表14人の一人に選ばれ、副キャプテンとしてアジア選手権大会に出場しました。中川さんは、

「代表に届かなかった選手たちの思いも胸に、自分に与えられた役割を果たそうと思いました」と当時の心境を振り返ります。大会を戦う中で、高身長で攻守ともに優れた選手たちと対戦し、世界との差を実感。「さらに成長して代表選考を勝ち抜き、世界の舞台に立ちたい」と力を込めます。

「家族はいつも応援してくれ、チームメイトや先生方は選抜や合宿に快く送り出してくれました。本当に感謝しています」と、支えてくれた人たちへの感謝も口にします。高校で指導する野田未佳監督は「高さを生かしたプレーはもちろんですが、一番の魅力は、

人間性です。苦しいことにも率先して取り組み、優しさと強さを兼ね備える選手です」と話します。また、小学生時代に指導した廣野仁士さん（ひろののひとし）にも一生懸命で、誰に言われなくてもブロッカー役や球拾いを率先して行う頑張り屋でした。これからも感謝の気持ちを忘れず、京都府北部を代表する選手へ成長してほしい」と教え子の活躍に期待を寄せます。

努力を惜しまず、自分にできることを積み重ねてきた中川さん。「プロバレーボール選手・水町泰斗選手（みずまちたいと）のように、インドアとビーチの二刀流で世界を目指したい」。中川さんの挑戦は、まだ始まったばかりです。



なかがわ めい

平成21年生まれ。福知山淑徳高校3年。

市場小、江陽中を経て、福知山淑徳高校に進学。高校1年からインドアとビーチバレーボールの二刀流に挑戦し、バレーボール女子U18日本代表としてアジア選手権大会に出場。今後は、10月の国民スポーツ大会（バレーボール少年女子）に京都府代表として、また、11月にはセネガル共和国・ダカールで開催される「第4回ユースオリンピック競技大会（ビーチバレーボール）」にTEAM JAPANの選手として出場予定。身長181cm。ポジションはミドルブロッカー（※）。

※相手の攻撃を阻むブロックと、素早いウィック攻撃の中心的役割を担うポジション

